

ラグジュアリーな幸福感。

ラグジュアリーなモノをまとった人は、仕草や心までエレガントになる。
25ansの編集長として、日本のファッショントレンドを牽引してきた十河編集長に、
ラグジュアリーブランドの極意についてお話をうかがいました。



人が袖を通した瞬間、 命が吹きこまれる

高級感あるエレガントなファッションを中心に、上品で女性らしいコーディネートを紹介し、本物志向の人に向けたファッション情報を発信し続ける女性誌「25ans」。編集長である十河ひろ美さんは、25ansを通じて、数々のラグジュアリーブランドの素晴らしさを伝えていきます。ご自身もファッションが大好きで、ラグジュアリーブランドを身につけることで幸福を感じているという十河編集長に、ラグジュアリーブランド

の魅力はどこなところにあるのか、お話をうかがうことになりました。

ルイ・ヴィトンのリトルブラックドレスを身につけて現れた十河編集長。シンプルを極めたデザインが編集長の知的な印象にぴったりと寄り添っています。取材スタッフから、その素敵な声がかかると、十河編集長はアルカイックスマイルに。その瞬間、大人の女性だけに許されるエレガントな空気感が漂います。そしてラグジュアリーブランドの魅力について語ってくださいました。「ハンガーに吊るされている状態では、服の本当の価値はわからないもの。このブラックドレスも一見するとシンプルなデザインのように思えますが、そこに命が吹きこまれます。まず素材が優れているから肌触りがやさしい。ウエストが心地よくしぼられていて着心地が良い。よく見るとモノグラム・モチーフが織りになっていて、絶妙な位置に、LVがデザインされている。着る人もっとも美しく見える最高の技術、身につけた人だけが実感できる幸福こそ、ラグジュアリーブランドの魅力であり価値ではないでしょうか。」

アトリエの技術こそ、 ブランドの真髄

世界中のコレクションに出掛け、ラグジュアリーブランドのアトリエ技術を多く取材してきた十河編集長

に、ブランドがどのような努力をしているかについても教えていただきました。ラグジュアリーブランドは、デザイナーの創造性に加え、実際に作り上げるアトリエの力があってはじめてブランドとして存在することができると。「プレタポルテの発表に行きつくまでに、デザイナーは果てしない創造性と試行錯誤を重ねます。さらにアトリエでも同じように果てしない製作工程があり、手間と時間をかけて丁寧に作られています。私達の想像を絶する世界です。そして洋服の歴史ではなんと、いつてもヨーロッパのメゾンがいちばんの伝統を誇りますが、その伝統があるからこそ、メゾンは一過性では得られないデザイナー力や美しいラインを知り抜いています。つまりあらゆるジャンルの最高峰がアトリエ

で結集して出来上がったのが、ラグジュアリーブランドの商品なのです。だからこそ、ハンガーに吊るされている服を見るだけではもったいないと十河編集長は強調します。「ぜひ袖を通して欲しい、実際に身につけてみたいのです。見えないところにアルティマたちがどれほど技術を凝らしているかがわかるはずです。」

25ans 編集長
十河ひろ美さん
Hiromi Sogo

86年婦人画報社(現・ハースト婦人画報社)に入社。「mcシスター」、「25ans」の編集長として活躍後、「ヴォーグニッポン」(現ヴォーグジャパン)、「Miss」などの編集長として多くの女性誌を手掛ける。この豊富な経験を活かして現在は、日本ならではのラグジュアリーなクラマガジン「25ans」、ハイレベルなものを求める成熟世代の女性たちに向けた「Richesse」の編集長を務める。





日本人はラグジュアリーの 本質を見抜く眼力がある

日本人はブランドへの理解力に優れていると十河編集長は分析しています。そして日本の中でも特に名古屋にはそうしたDNAが濃く息づいていると。「ものづくりに長けた日本人は、モノを見る目や質の良さを見抜く力がとても高いと思います。世界中のブランドがなぜ日本に積極的に出店するかというと、ただ買ってくれるからという理由だけでなく、モノの良さがわかってもらえるからだと思います。また25ansを支えてくださる名古屋のファンの方はとても多く、エレ女がたくさん

いらっしやいます。豊かな街だからブランドが定着するのでしょう。身だしなみや身のこなしがエレガントな女性が多いですね。さらにミッドランドスクエアについても「ラグジュアリーブランドのラインナップがすごいですね。名古屋の街の印象は、ミッドランドスクエアができたことによって、とてもモダンになったと思います」と嬉しい言葉も。

ラグジュアリーブランドは、 内面まで美しくしてくれる

最後に、ラグジュアリーブランドを身につけることによるオシャレの効果についてうかがうと、こんな素

敵な言葉が返ってきました。「美味しいものを食べると人は自然に笑顔になるのと同じで、上質なモノを身につけると、人は自然に仕草や姿勢が良くなり、着る人のステイタスを上げてくれます。ラグジュアリーブランドとエレガントというのは共鳴しあっていて、人の内面まで美しくしてくれると思うのです。見えないところにブランドの技術が尽くされているように、着る人間も外見では見えないところに自信がつくのではないかしら」。これはラグジュアリーブランドを着こなした人だけに理解できる言葉です。また、長い時を経てもその価値は変わらずに輝き続けるラグジュアリーブランドはエコで

もある、と付け加えます。「ラグジュアリーブランドはそれなりに高価ですから、憧れているけど簡単には買えないわ、という方も多いでしょう。でも素材や仕立てが良いので長持ちしますし、大切にしようという思いがあるから、汚さず傷つけずにきれいに持つように心掛けます。使い手の心理までそうさせてしまうから、何年経っても輝き続けるのですね。こうしてラグジュアリーブランドはモノを大切にすることを育ててくれますし、長い目で見ればエコだと思いますよ」。大好きなブランドショップで、洋服に袖を通してみる、靴を履いてみる、バッグを持つてみる。その時の華やき感こそ、ラグジュアリーブランドの魅力を理解する第一歩。それがやがて内面の美しさへと繋がっていきます。「人生を謳歌しているエレガントな成熟世代にこそ、ラグジュアリーブランドを身につけていただきたい」と十河編集長がメッセージをくださいました。



Fashion Talk

「カーブのドレープがとてもきれいでしょ。これはハンガーにかかっているのはわかりません。実際に身にまわってみてはじめてわかる美しさですね」

INFORMATION

ヴァンサンカン
25ans

ハースト婦人画報社
が発行するエレガント
女性に人気のラグジュ
アリーファッション誌。
4月号は名古屋特集も
登場！お楽しみに！



※写真は3月号1月28日発売です。

ヴァンサンカン 4月号 2月27日発売